

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼東町6-8-1		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ligyosvoCd=2170500819-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今まで生活を継続して行なってもらうように、利用者様の一人ひとりのペースを十分に把握して生活してもらうように、心がけています。 そして、法人の理念「地域に根ざした医療と介護と福祉を誠の心で実践します」をモットーに医療と介護の両方から利用者様をサポートする体制を整えています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者や主任は、職員それぞれの事情を把握して、働きやすい環境を整えている。折に触れ一人ひとりの職員に、労いの言葉をかけながらコミュニケーションをとり、職員からの信頼も厚い。職員間でチームワークが取れており、永年勤続者が多い。職員と利用者が、梅干し作りを行ない、赤紫蘇の下ごしらえや、庭先で一緒に梅の土用干しを行い、出来上がった梅干しは、毎朝の食事に添えている。毎週末には、地域のごみ拾いや清掃等の自主活動を継続し、地域貢献を大事にしているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を事務所に掲示。又職員は名札に携帯し、いつでも確認出来るようになっていた。それを見ながら利用者様が望む生活を実施している。	職員は、法人の理念「地域に根差した医療と介護と福祉を誠の心で実践する」を共有している。医療との連携を密にし、利用者や家族の思いを大切にして、自立に向けた暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会に呼んでもらいながら交流を図っている。福祉フェスティバルに、小物などを利用者と共に作り出展している。	事業所は、毎週日曜日、近隣の清掃を継続して行っている。また、手芸品を地域のバザーに出展する等、地域に根差した活動をしている。近所の住民とは、花の差し入れや、水道の水漏れを知らせてもらう等、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人本部から地域の方に向けての勉強会を開催。又運営推進会議に自治会の方に出席の協力を頂き認知症利用者の症状について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に1回カンファレンスを行い運営推進会議が開催された月はその場で重要なポイントが報告し検討が必要な事項については話し合っている。	会議には、利用者も参加している。「食事はおいしいですか」の問いに、利用者から「うまい。」の発言があったり、ホームからの報告に関連した質問や意見が出され、それらを運営やサービスに反映している。会議の重要課題については、速やかに職員に報告し、共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報をメールで受けながら、市主催の勉強会などには積極的に参加するように心がけている。又運営推進会議の時には積極的に情報を交換している。	管理者が、こまめに行政の窓口足を運んだり、市のホームページで情報を得ている。市主催の講習会や会議には、積極的に参加し、市と良好な関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束ゼロ」を基本に利用者様の日常生活を快適に過ごしてもらうように支援している。基本的に本人の自由を考え拘束をしないようにケアに取り組んでいる。	職員は、拘束をテーマにした法人内研修に参加し、身体拘束について学んでいる。緊急時に備えて、浴室や玄関に笛を置き、「フロアから離れる時は、気をつけよう」と声を掛け合い、見守りながら利用者の安全の確保に努め、拘束ゼロを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には参加するように心がけている。日常生活上で痣など無いか全身観察できる場面は注意深く観察している。必要に応じて行政に相談するようにしている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所は相談無し。必要であれば相談・援助していく方向で思っている。研修には積極的に参加をして行こうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人と家族が納得いくまで契約書を開き説明している。又、不安や疑問など質問事項があった場合は常時説明している。これからの利用方法など家族と相談しながら安心できる対応を考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の中で、家族の要望や意見を聞き年1回、アンケート行い意見を聞いている。面会時も同様にしている。	毎月発行の通信の中で、利用者の日常の様子、行事等をきめ細かに発信し、面会時や電話で意見や要望を聴いている。家族からの様々な要望には、納得できるように説明を行ない、できる事から対応し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は、カンファレンスを開き現場内の問題点や改善策を話し合っている。又運営に関する問題点に関しては、法人代表者が集う会議に管理者が報告するようにしている。	職員は、会議や個別面談の中で、気楽に意見や提案を出すことができる環境にある。利用者への言葉かけ、対応等、ケア面での気づき、転倒防止の工夫等、職員の意見や提案は、サービスや運営に速やかに反映され、働く意欲にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回は個別で職員と面談を開き現状の把握をしている。又忘年会で功労を称え表彰をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人、人事考課を元に力量を評価している、又施設内で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政が行なう研修には出来るだけ参加、又事業者協議会等の他事業所が集まる場面にも参加をし交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人に事前にアセスメントを行い、日々の様子を家族に報告。入居した頃は、出来るだけ多くコミュニケーションを図るよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時積極的に職員が交流を持つことで会話から聞き取り解決するようにしている。又話しやすい環境を作るように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の場面でアセスメントを含む情報を取りできる限り能力を活かした支援が出来るように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、家事等を一緒にする事で職員と共に家族という意識を持ち業務を行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を家族に伝え、墓参り等の外出、季節の衣類を用意してもらい面会の際衣替えを行なってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に外出等呼びかけ出来る限り家での生活や繋がりが絶えないように心がけている。	職員は、利用者の友人、家族の面会時には、お茶を出し、温かい雰囲気と言葉で接し、訪問者の再来につながるよう支援している。盆、正月等の一時帰宅や、馴染みの美容院へは家族の同行で出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性も大切にしているが、集団レクも大切にし利用者同士協力性を高めるように心がけている。 生活や習慣を考え共同での暮らしがしやすいように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談に乗ることを伝え、安心していただいた上で、退所して頂いている。又法人内でご家族と顔を合わす場面があれば気軽に話しかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を尊重し、居室で過ごしたい方は無理にホールに誘わず、時間をかけ声かけ見守りを行なう。入浴は希望されれば可能な限り要望に沿っている。	日常の関わりの中で、思いや意向を汲み取っている。新入居者には、関わる時間を多く持ち、思いを聴くよう努めている。ポータブルトイレを用意してほしい、家に帰りたい等の要望には、速やかに対応したり、傾聴を心がけ利用者が納得できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方にアセスメントを出来る限り記入して頂き把握している。必要であれば家族と連絡を取り必要な事を聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のペースやその日の気分をみながら一日の生活の流れを本人が安心して過ごされるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と本人の意見を交換し、その時々の状態に合わせて居室の家具やペットの配置を決め安全で安心して過ごせる生活が出来るように配慮している。	家族には、予め、意見や要望を書き込める用紙を渡し、確認している。面会時や電話等でも意見や要望を聴いている。申し送りや介護記録で情報を職員で共有し、利用者の安心、安全な生活支援のプランを作成し、状態の変化に応じ、柔軟に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や様子を記録、それに基づきプラン作成している。その他利用者から聞いた事などは必要であれば申し送り等で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望が強い時など、施設周辺の散歩や草引きを職員と行き無理に引止めず、声かけしながら気分転換を図っている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の清掃を職員と行ないながら、顔見知りになり声をかけてもらっている。又入居の際に自宅での生活習慣を記入して頂き参考にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者の方は法人内の病院に受診している。専門医の受診が必要な場合は、家族との連絡を密にしなが、紹介状を持って適切な病院に受診している。	かかりつけ医は個々の希望によるが、ほとんどが協力医を選択し、月2回の往診を受けている。専門医の受診は家族が同行し、結果は家族から情報を得て、職員と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状態を報告し、異常がある時は病院受診している。又月に二回は往診を行い、異常の早期発見をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設内での様子を介護サマリーにまとめ、医療機関に情報提供している。またその後は、相談員と情報を共有しながら、退院後のスムーズな受入が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人と話し合いの場を設け今後の意向や事業所として出来ることを明確することで本人、家族が望む適切なケアが出来る体制を作っている。必要であれば医療機関と施設に協力を依頼している。	契約時に、重度化や看取りの方針について説明している。看護師、医師との連携を密にし、利用者の状態の変化や家族の思いに、丁寧に対応し、段階的に話し合いを進め、医療的な看護や治療が必要になった時点で、適切な施設や医療機関を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応する。又施設内にAEDを設置。取り扱いに関しても研修を毎年行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い避難方法等周知している。又緊急連絡網を作成する事で協力体制も整えている。	夜間を含め、火災を想定した訓練を年2回、実施している。毎月のミーティング時にも併設施設と合同で、利用者の避難方法について全職員が対応できるよう、訓練を重ねている。土嚢を備え、備蓄もある。寒さ対策や避難用具として、各居室に毛布を置いている。	26年度の災害対策目標が、道半ばとなっている。地域との連携を引き続き検討し、連絡網の中に、地域の人に入ってもらう等、利用者の更なる安全に向けた取り組みが期待される。

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必要に応じて1対1で対応したり、プライバシー保護のマニュアルを作成し対応している。	職員は、利用者が言いにくいこと、人に話したくないこと等を自分のことに置き換えて考え、言葉や態度で利用者の人格を傷つけないよう、心がけている。夜間、自室の施錠を希望する利用者の気持ちを尊重し、夜勤者は、必要時に開錠できるように工夫して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事を居室でと話される方は、希望通りにして頂いている。基本的に意思を尊重し、日々のコミュニケーションしやすい話し方を心がけ業務を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を穏やかに過ごすことを考え気分が乗らない時間や拒否がある時などは時間をずらすなど配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣服は朝本人が決めたり、声かけにより選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の会で1日のメニューを利用者に読んでもらいテーブル拭き食器洗いなどを職員と共にしている。	調理は職員が行い、テーブル拭き、箸並べ等は利用者が役割として自発的に行っている。手作りの梅干しや紫蘇ふりかけ、季節の料理等を話題にして、職員と一緒に楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回チェック、少ない方にはお茶ゼリーや、とろみ、ミキサー、刻み、本人に合わせて調理。それでも摂取量が少ない場合は、主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせて付き添い見守りを行い、必要であれば介助を行なっている。		

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入して、頃合を見計らってトイレ声かけをし、パット汚染を少なくするように努めている。	個々の排泄パターンに合わせたトイレ誘導により、失敗が少なくなり、排泄用品の利用料負担の軽減にもつながっている。トイレでの排泄ができなかった人が、繰り返し介助しているうちに、意思表示ができるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い食べ物を提供するなど日頃から便秘予防を心がけている。業務の中で散歩を取り入れるなど軽度の運動する場面を作るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する方には、毎日声かけをし入りたい日に入浴して頂いている。お湯の温度も一人一人に調整しその方に合わせた入浴が出来るように配慮している。	入浴は毎日入れるよう準備し、希望に応じ柔軟に支援している。重度の利用者の入浴介助はユニット間で協力し合い、職員2名で担当し、安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの布団や枕を入居の際に持ってきてもらったり、昼寝をしたいと言われれば、居室で休んで頂いたり、ソファで休んで頂いたり、希望に沿って休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	まとめた薬剤情報を見て副作用などを日常からチェックしていき、異常があれば医療機関に報告、指示を貰うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んで頂いたり、日記を記入、掃除の得意の方には疲れないように見守りながら行なって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑に出かけたり、小学校の運動会に見学に行ったり、家族の方と喫茶店に行かれたりされている。	事業所周辺を散歩する人や、車椅子利用者が、庭の花や菜園を眺めながら外気を浴びる等、利用者に合わせた外出を支援している。盆、正月等の一時帰宅や墓参りは、家族の協力を得て支援している。	

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預かったりしていない。持参などもされない為に支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自由に家族と電話をしたり、本人が家族への連絡を希望される時は、職員が家族へ連絡を取り、本人に代わって用件を伝えるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は窓によしずを置き西日を遮っている。季節感を味わって頂けるように、お雛さま、クリスマスツリーをホールに置いたりしている。利用者様は空気の入替えで窓を開けて気分を変えていただいている。	トイレは、車椅子が入る十分なスペースがあり、安心、安全な介助が出来る。自然換気に加え、冬は床暖、夏はエアコン等で、温湿度を適切に調節している。食卓には庭先の花を飾り、中庭に洗濯物を干し、生活感がある居心地の良い共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで話をしてもらったり、玄関口や季節のよい時は、中庭で緑をみながらお茶を飲んでもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談してベットの位置を決めてもらったり、利用者様が自宅で使っていたテーブル、椅子、時計を持ってきてもらい使用している。使い慣れた茶碗やフォークなども持参して頂いている。	居室には、持参した筆筒や椅子を配置し、手作りの作品やメッセージ、写真入りの誕生日プレゼント、家族の写真等を飾っている。清掃が行き届き、清潔で居心地がよく、利用者が安心して生活できる環境作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはそれぞれネームを掲げて利用者様に分かりやすくしている。カレンダーを居室、廊下に貼って月日がわかるようにしている。		